

平成28年度  
禅ブランディング  
自己点検・評価報告書

平成29年3月

駒澤大学禅ブランディング  
自己点検・評価実施委員会

## ◆点検シート

点検・評価 年度	2016年度	点検単位	事業全体
-------------	--------	------	------

## 目指す姿(2020年)

1. 禅(ZEN)の思想的研究を基礎として、現代人が抱える「心」の問題に対し、新たな提言を行う。
2. 禅(ZEN)の研究を、超領域的に行うことを通し、新たな視座を獲得する。
3. 禅(ZEN)思想の根幹である「坐禅」が身心に与える影響を科学的に検証する。
4. 上記の1. 2. 3. を総合的に結んだ研究の成果を、混迷の一途をたどる国内外に向けて発信する学全学的な組織(禅研究センター)を設置する。

## 年次計画 目標(2016年)

- 研究組織の体制整備や禅(ZEN)セミナーに必要な備品の購入、本事業の広報ホームページの作成等の事業の実施体制の基盤を作る。
- ・先行研究の整理や実地調査を中心に行い、平成29年度以降の研究の基盤を作ること。
  - ・備品の購入、広報ホームページや禅(ZEN)に関するWebコンテンツの作成等を行うこと。
  - ・平成29年度以降の実施体制の基盤を作ること。

## 平成28年度の事業進捗について

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、現状説明を記入。

## 【平成28年度の事業結果や実績】

平成28年11月22日に文部科学省より補助事業の選定通知を受け、本格的に開始した。  
平成28年度は、選定時期との兼ね合いもあり、主に研究組織の体制整備、研究基盤作成準備、学内関係部署等との調整や各種手続を中心として実施した。

## 【本事業の成果を基にした社会へのサービス活動】

大学ホームページに禅ブランディング事業に関するウェブページを作成し、社会へ情報発信している。  
また、一般参加が可能なイベントとして、体と心チームでは3月4日に坐禅会を、社会制度チームでは3月18日にZEN BRANDING KICK OFF EVENT NO.2を、それぞれ開催した。

## 【学外組織との連携による本事業の推進】

本事業の連携機関として、曹洞宗の両本山(永平寺、總持寺)や臨済宗の研究を扱っている花園大学国際禅学研究所、公益財団法人禅文化研究所より、承諾をいただくことができた。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【点検・評価(効果が上がっている事項)】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

- 各研究チームでは、今後の活動を進めていくにあたり、研究組織の体制整備や研究の基盤となるデータ等の準備を実施した。
- 源流チームは、花園大学国際禅研究所や公益財団法人禅文化研究所との連携を実施した。『新纂禅籍目録』のデータ化を行うなど、基礎データの作成に着手した。
- 体と心チームでは、3月4日に坐禅会を開催し、慈悲の瞑想の臨床試験を実施した。
- 社会制度チームでは、禅の基本知識を得るための勉強会を2回開催し、禅研究の基礎的な研究内容の理解やグローバルな視点から禅研究を広めていくための手法や考え方を学んだ。
- 世界発信チームは、本事業のブランディング戦略(5年間)を立案する業者を公募し、株式会社電通と協力する方針が決まった。また、ブランディング効果の測定として、株式会社インテージにステークホルダー調査等を依頼した。
- 事務部門は、本事業を学長のリーダーシップのもと円滑に実施するため、研究活動推進委員会や禅ブランディングプロジェクトチーム合同会議を実施した。また予算管理においては、学内の調達部会の承認を得るなど、既存の学内ルールに準じて執行した。

【点検・評価(改善すべき事項)】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

- 各研究チームにおいては、選定時期との兼ね合いもあり、研究の開始が遅れている。
- 研究組織や学内関係部署との連携など、急遽構築した組織体制であるため、今後5年間の事業を進めていく上では、順次見直す必要がある。
- 大学ホームページにて発信している内容は、文部科学省に提出した資料と同一であるため、事業の進捗などの最新情報を載せる必要がある。
- 本事業の連携機関となっていた研究機関等と、連携内容等について今後の方針が決まっていない。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

- 各研究チームでは、研究組織の体制や基盤データ等を活用し、研究活動を本格的に開始する。
- 源流チームは、近世曹洞宗の教学についての研究班を立ち上げる等、研究会や勉強会を本格的に実施する。また、禅研究の一部を一般向けコンテンツとして展開する。
- 体と心チームは、坐禅の効果検討を様々な手法で実施する。本学の仏教学部学生を対象とした成長発達の変化を検討したい。また、曹洞宗の坐禅、他宗の坐禅について、仏教、心理学、医学、哲学など、分野間の知見を集積し、坐禅法全体を俯瞰した上で、それらの効用の違いを科学的に検討する。
- 社会制度チームでは、合同研究会の内容・中身を再検討し、多頻度で開催する。
- 世界発信チームは、基盤となるホームページの作成を積極的に進める。また、アンケート調査での結果を分析し、積極的に活用する。既に翻訳済である英語・中国語(繁体字・簡体字)・韓国語に加え、フランス語の翻訳を検討し、更なる多言語対応を目指す。
- 事務部門は、関連委員会において、禅ブランディング事業の取り組み等の状況報告や学内構成員へ恒常的な報告を行う。ホームページに、新たなコンテンツを追加する。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

- 各研究チームにおいては、研究が円滑に進むよう、学内調整・外部機関との連携が取れる環境をつくる。
- ※チーム×関係事務部署、禅ブランディング関係者×無関係な教職員、禅ブランディング関係者×外部業者・連携研究機関、禅ブランディング関係者×ステークホルダー…etc
- 大学からの発信する内容を充実させる。Ex. 禅に関するコンテンツを作成する。
- 禅研究センター設置にかかる手続きに着手する。禅研究センター設置準備室(仮称)を設置し、検討を開始する。

## ◆点検シート

点検・評価 年度	2016年度	点検単位	源流および文化のチーム
-------------	--------	------	-------------

## 目指す姿(2020年)

①駒澤大学が1964年に発刊した『新纂禪籍目録』を更新する。汎世界的な禪籍の情報を集約したデータベースを作成・公開することで、世界の禪(ZEN)研究を牽引する情報発信拠点となる。

②文学や芸能、美術など江戸時代の文化や社会民衆の中にあつた禪(ZEN)に焦点をあて、近代以前における禪(ZEN)文化の影響について明らかにする。禪寺・禅僧における禪(ZEN)と比較検討し、伝統的な日本の禪(ZEN)の再考と発信を行うこと。

## 年次計画 目標(2016年)

文学や芸能、美術など江戸時代の文化や社会民衆の中にあつた禪(ZEN)に焦点をあて、近代以前における禪(ZEN)文化の影響について明らかにするため、本学図書館所蔵の禪籍資料や近世の文学作品等を主な対象とする研究を行う。また、『新纂禪籍目録』の更新に向けた作業を開始する。必要に応じて、国内外への実地調査を行う。

## 平成28年度の事業進捗について

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、現状説明を記入。

## 【平成28年度の事業結果や実績】

『禪籍目録』データベース研究班、切紙・本参史料データベース化研究班を立ち上げ、新たに人員を配置し、作業計画を作成した。データベースのフォーマットや運用方法等について意見交換を行うとともに、基礎データの作成や史料整理等を実施した。

## 【研究計画実施に向けた会議・勉強会・セミナー等の開催】

多くの史料を保有している、花園大学国際禅研究所・禅文化研究所宛に連携を依頼し、承諾をいただいた。禪籍抄物の史料調査に関して、所蔵者との調整を行っている。

本参・切紙史料翻刻に関して、具体的には群馬県渋川市雙林寺所蔵史料の翻刻に着手しており、本年度も新たな史料を公刊した。

永平寺所蔵本参・切紙史料は『永平寺史料全書』禪籍篇第1～4巻、文書篇第1・2巻に翻刻されており、所蔵者と許可を得てデータベース化を行うことで調整中である。

新たな史料収集については、長野県塩尻市西福寺所蔵史料について、悉皆調査に向けて調整中である。

## 【データベース公開に向けた作業の進捗】

既存の『新纂禪籍目録』のデータ化を行い、基礎データの作成に着手した。

本参・切紙史料についての画像データベース化、テキストデータ化、翻刻・影印された史料の整理と分類を行った。

また、根幹となるデータベースのフォーマット、運用方法等について勉強会を行い、グループ会議、グループリーダー会議を通して、意見の交換を行った。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【点検・評価(効果が上がっている事項)】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

基礎データとなる史料を保有している、様々な寺院等と連携や調整を進めることが出来た。

【点検・評価(改善すべき事項)】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

禪の文化や芸能等の研究を十分に進めることが出来なかった。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

来年度以降、近世曹洞宗の教学について研究班を立ち上げ、先ず『正法眼蔵』の研究注釈書の概観を行い、勉強会並びに研究会を実施する。

これらの研究内容は、曹洞宗教学の歴史的展開の一端を明らかにすると共に、平易な叙述による概説・入門書の役割を果たすべく、コンテンツ作成を行なう。

同様に禪籍抄物について研究会を行い、国語学を初めとする先行研究を検証し、中世後期以降の日本語(口語文)で語られた禪の特色を明らかにする。

頂相のデータベース作成の為の研究班を立ち上げる。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

禪の日本化の問題に関して研究をすすめ、HP等で公開するコンテンツの作成を目指す。

## ◆点検シート

点検・評価 年度	2016年度	点検単位	人の体と心チーム
目指す姿(2020年)			
①禅(ZEN)による身心への影響を、脳波測定等により科学的に調査すること。 ②禅(ZEN)の効用を活かすプログラム(例:企業研修等における禅(ZEN))を開発すること。 ③禅(ZEN)の観点から、現代人が抱えている心の問題に提言をすること。			
年次計画 目標(2016年)			
禅(ZEN)を科学的に検証するため、先行研究の整理と実地調査を行う。国内寺院や修行道場における禅瞑想法、海外におけるマインドフルネス(メソッド化した自己啓発、心理療法として用いる瞑想)等を対象とする。			

## 平成28年度の事業進捗について

**【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、現状説明を記入。**

**【平成28年度の事業結果や実績】**

慈悲の瞑想の臨床試験を実施し、坐禅会の実施とその効果測定を行った。それぞれ分析を実施中である。

**【研究計画実施に向けた会議・勉強会・セミナー等の開催】**

チーム内で会議を3回行った。(参加者数=各5名)

3月4日(土)に坐禅会を実施し、研究参加者とともに、チームメンバーも坐禅の実践に取り組んだ。(坐禅会の参加者=100名程度)

**【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。**

**【点検・評価(効果が上がっている事項)】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。**

慈悲の瞑想のプログラムは、研究成果が積み重なっており、社交不安症の患者には有効であることが、質問紙、インタビュー、脳波によって明らかになった。坐禅については、只管打坐を行う前に、呼吸法を取り入れた方法が、身心に与える影響について検討した。現在、分析中である。

チームメンバーが、坐禅会や学内講習会に参加することで、禅について深く知ることができた。

**【点検・評価(改善すべき事項)】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。**

坐禅会の広報手段が確定しておらず、混乱を生じた。

坐禅会を運営するスタッフが不足している。特に、参加希望者に対して脳波を測定するスタッフが足りない。

坐禅会を通じて、多くの方が科学的研究に協力的であることが分かったが、学内では必ずしもそうではなく、全学的理解が必要である。

**【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。**

**【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。**

坐禅会については、様々な手法による効果を検討する必要がある。また、本学の仏教学部学生を対象にして、何度も坐禅することでどのような成長発達が得られるのかを検討する。

また、曹洞宗の坐禅、他宗の坐禅について、仏教、心理学、医学、哲学など、分野間の知見を集積し、坐禅法全体を俯瞰した上で、それらの効用の違いを科学的に検討する。

**【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。**

禅のとらえ方は、研究者間で異なっているが、本学のブランディング事業として何を禅としてとらえるのかについて、全学的な議論が必要であることが明らかになった。こうした議論を踏まえて、そこから何を科学的に証明するのかを再検討しつつ、研究を続けるという流れが考えられ、現在のところ学長以下多くの先生と横のつながりを持って検討を始めたところである。

## ◆点検シート

点検・評価 年度	2016年度	点検単位	社会制度チーム
-------------	--------	------	---------

## 目指す姿(2020年)

- ①中世の日本において、禅(ZEN)が当時の社会や戦国大名等に受容された経緯を明らかにすること。
- ②現代の社会制度に求められるサステナビリティ等の思想的背景に、禅(ZEN)がどのように活かされるかを検討すること。
- ③禅(ZEN)の観点から、現代人が抱えている心の問題に提言をすること。

## 年次計画 目標(2016年)

中世の日本において、禅(ZEN)が当時の社会や戦国大名等に受容された経緯を明らかにするため、「林下」や「公案」の制度背景、戦国大名や地方武士に受容された社会背景等を主な対象とする研究を行う。

## 平成28年度の事業進捗について

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、現状説明を記入。

## 【平成28年度の事業結果や実績】

(1)社会制度の研究会の進行に向けた会議の実施。(2)社会制度の合同研究会の実施。(3)各自の研究を進める。

## 【研究計画実施に向けた会議・勉強会・セミナー等の開催】

- (1)平成29年1月30日(月) 10:00-10:50 本部棟9F 会議室にて社会制度の研究会の進行に向けた会議の実施。
- (2)平成29年2月22日(水) 15時～17時半。駒澤大学本部棟6階にて「もっとよく知ろう禅の世界 VOL.1」の合同研究会を開催。発表:永井政之先生、司会:各務洋子先生、約20名参加。
- (3)平成29年3月18日(土) 14時半～17時半。駒澤大学中央講堂にて合同研究会を開催し、約30名が参加し、質疑を行った。  
「禅宗の展開と地域社会—曹洞禅を中心に—」発表:廣瀬良弘学長(文学部教授) 司会:日笠完治(法科大学院教授) 質疑応答:参加者全員  
“Branding Zen:From Komazawa to the World”(「ブランディング・ゼン:駒澤から世界へ」)講演者:ダンカン・ウィリアムス先生(南カリフォルニア大学)

## 【研究計画実施にむけた実地調査】

(1)平成29年3月1日(水) 14時半～17時半。石川県金沢市の鈴木大拙館を1名(青木茂樹)が見学。木村宣彰館長と意見交換をした。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【点検・評価(効果が上がっている事項)】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

社会制度のグループ研究において、禅の基本知識を得るための勉強会を2回開催することができた。この研究グループにおいては、仏教学部以外の教員も多いため、まずは中国における禅研究の専門家である永井政之先生の報告と討論を、続いて日本における禅宗の地方展開の専門家である廣瀬良弘先生の報告と討論を行い、禅研究の基礎的な研究内容の理解と、各自の研究計画の方向性に大変な示唆を頂いた。さらにグローバルに禅研究ブランディングを展開するために、禅研究のみならず日本文化をアメリカに広く伝える業務を行っている南カリフォルニア大学のダンカン・ウィリアムス先生をお招きして、グローバルな視点から禅研究を広めていくための手法や考え方を学んだ。

【点検・評価(改善すべき事項)】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

禅研究の基礎的な知識が十分でない、他の専門分野の研究者が多い中で、その進め方を決めることに時間を要した。方向性や研究方法が見えてきたので、平成29年度は研究を大きく進展させていきたい。合同研究会については、できる限り公開とし、他の研究グループや一般参加者を多く募りたい。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

合同研究会は有意義であるため、内容・方法を再検討しながら、多頻度に開催する。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

実地調査が十分にできていないため、実地調査の計画、開催を行う。

## ◆点検シート

点検・評価 年度	2016年度	点検単位	社会貢献・世界発信チーム
目指す姿(2020年)			
①正しい禅(ZEN)の情報について、Webコンテンツを制作し、国内外に向けて発信する。 ②禅(ZEN)セミナー(例:坐禅体験、企業研修等における禅(ZEN))を開き、社会へ貢献する。 ③駒澤大学を拠点とした寺院との連携機能(ハブ&スポーク)を構築し、本事業の研究成果を各寺院で活かす環境を整備する。 ④2020年の東京オリンピック開催を契機とし、グローバル化された禅(ZEN)を発信する。 ⑤3チームの研究成果の発信をサポートし、大学全体の禅(ZEN)研究ブランドを確立する。			
年次計画 目標(2016年)			
禅(ZEN)セミナーに必要な備品の購入や本事業の広報ホームページの作成等、平成29年度以降の実施体制の基盤を作ること。			

## 平成28年度の事業進捗について

<b>【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、現状説明を記入。</b> <b>【平成28年度の事業結果や実績】</b> ①5年間一貫したブランディング戦略を立案する専門業者の選定 ◎公平性を期すことと選定過程の透明性を担保するため、本学のホームページを利用して広く社会へ公募をかけた。 業者選定に関する手段やスケジュール等は、桑田副学長への報告や執行理事会議の承認等を得て実施した。 1月17日執行理事会議にスケジュール等を報告し、了承された。 1月23日学内決済終了後、本学HPに仕様書をアップロードした。(一次審査申請締切:1月31日) 1月31日7社の応募を確認 ⇒ 2月1日 一次審査として、二次審査通過社3社を決定した。(二次審査申請締切:2月20日) 2月22日二次審査実施。1業者1時間のプレゼン&質疑応答をもとに、審査員9名が評価(最高得点と最低得点を外した総得点)し、最高得点は株式会社電通となった。 3月6日執行理事会議にて、電通と契約する方針が了承された。 3月16日電通本社に伺い、契約に関するスケジュールや契約書面を確認した。 3月28日電通の担当者と打ち合わせを行い、ブランディング・プランの方向性等を確認した。  ②ブランディング効果の測定を依頼する業者の選定 ・3社見積りの結果、株式会社インテージとなり、現在、効果測定の対象や項目、測定方法等の打ち合わせの後、2月27日に発注した。 なお、測定対象や測定項目等は4チーム合同会議の議題とし、他チームの意見聴取や情報共有を行っている。 ・ソーシャルリスニングとして、大学や禅ブランディング事業に関する話題が、どの程度、Twitterやブログ、掲示板などのソーシャルメディアで話題になっているのかについて調査した。  ③翻訳 禅文化歴史博物館 常設展示解説書「禅の世界」について、既に翻訳が終わっている英語・中国語(繁体字)に加え、禅の専門知識を持つ中国語(簡体字)や韓国語が堪能な方に翻訳の依頼をした。
<b>【社会からの評価】</b> 「ステークホルダーに禅＝駒澤という意識があるか」について、②のとおり株式会社インテージに依頼中であり、3月末までに測定の途中経過をまとめる予定である。
<b>【各研究チームとの情報交換】</b> 4チーム合同案件として、別シートに記載。
<b>【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。</b> <b>【点検・評価(効果が上がっている事項)】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。</b> ・2月22日に世界発信のための業者を決定したことにより、2020年までの5年間、情報発信の基盤としてのホームページ構築や、各研究チームの研究成果等の企画を発信する目処が立った。 ・具体的な方針・方法等を定めるため、3月28日の打ち合わせでは駒澤大学と業者間の共通理解を深める打ち合わせを実施した。  ・効果測定を実施する業者を決定し、一般の方3300名を対象としたアンケート調査を実施した。  ・禅文化歴史博物館 常設展示解説書「禅の世界」を、翻訳済み言語(英語・中国語(繁体字))に加え、中国語(簡体字)や韓国語に翻訳することで、禅文化歴史博物館を多言語で発信する準備した。
<b>【点検・評価(改善すべき事項)】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。</b> ・世界発信事業を担当する事務部署を確定すること。 ・各研究チームとの連携方法を強化すること。 ・大学内でプロジェクトチームの位置づけを確実にし、外部業者との連携がスムーズに実施できるようにすること。
<b>【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</b> <b>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</b> ・禅ブランディング・プランの外部業者が決まったことにより、今後は基盤となるホームページの作成に向けて、積極的に進める。 ・アンケート調査で得られたデータを分析し、ウェブコンテンツの作成に反映する等、積極的に活用する。 ・翻訳に着手した英語・中国語(繁体字・簡体字)・韓国語のみならず、フランス語の翻訳等を検討し、更なる多言語対応を目指す。
<b>【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</b> ・禅文化歴史博物館、教務部研究推進課、総務部広報課や大学当局と検討する。 ・他の研究チームとの情報交換を行うため、次年度は月に2回程度4チームリーダー会議を実施する。 ・外部業者との連携をスムーズにするため、学内の意思決定プロセスを明確化するなど、学内組織の合意等を迅速に進める。

## ◆点検シート

評価基準	2016年度	点検単位	4チーム合同(源流・人の体と心・社会制度・世界発信)
------	--------	------	----------------------------

## 目指す姿(2020年)

本学の禅研究に関する知の蓄積をさまざまな学部等・研究科の研究者を中心とした学術的交流と学際的議論を行う場を創設することにより、領域間の連携を促進し、新たな学際的研究領域を開拓する。

## 年次計画 目標(2016年)

・先行研究の整理や実地調査を中心に行い、平成29年度以降の研究の基盤を作ること。

## 平成28年度の事業進捗について

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、現状説明を記入。

## 【平成28年度の事業結果や実績】

上半期は研究ブランディング事業応募に向けた学内有志の募集と駒澤大学のブランディングプランを作り上げるための勉強会等を行った。  
下半期、特に当事業が採択された11月22日以降は、学部横断的な連携による新しい研究領域を創出するために4チーム合同の研究会を実施し、また各チームの連携を密にし情報を共有する目的から月に1回程度の4チームリーダー合同会議を実施している。

## 【4チーム合同の勉強会、会議の開催】

## 1. 勉強会

- ①平成28年5月25日(水) 各務洋子先生(GMS学部)「仏教・禅研究のブランディング化とは何かー韓国東国大学校の場合ー」  
＜社会制度チーム主催＞
- ②平成29年2月22日(水) 永井政之先生(仏教学部)「もっとよく知ろう 禅の世界」
- ③平成29年3月18日(土) 廣瀬良弘先生(文学部)「禅宗の展開と地域社会ー曹洞禅を中心にー」、  
ダンカン・ウィリアムス先生(南カリフォルニア大学)「Branding Zen: From Komazawa to the World」

## 2. 4チームリーダー合同会議(平成28年度)

12/20(火)、1/30(月)、2/22(水)、3/10(金)、3/15(水)、3/22(水)

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【点検・評価(効果が上がっている事項)】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

- ・複数回の勉強会開催により、参加教員間での禅に関する情報共有と情報交換が進んだ。
- ・4チームリーダー合同会議では、文科省や学内、研究チームごとのスケジュール等を確認するとともに、禅ブランディング事業全般にかかる議題を審議・検討した。

【点検・評価(改善すべき事項)】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

- ・ブランディングの対象となる「禅」に関する個々の知識と認識に大きな差異がある。
- ・リーダー会議の開催を不定期としていたため、少ない開催回数で多くの検討事項となっており、十分な検討時間が確保できていない。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

- ・現在の勉強会では、禅に関する共通理解・知識と参加教員それぞれがどのような興味・関心のもと当事業に参加しているかという情報交換が中心であるが、今後は駒澤大学のブランディングに関する明確な方向性の創出と、各研究チームへのフィードバック、さらに各研究チームの成果を共有することにより駒澤大学のブランディングに関する方向性をアップデートしていくような仕組み作りを進めて行く。
- ・4チームリーダー合同会議の開催日程を固定化し、報告事項や情報交換を定期的に変更する体制を整備する。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

- ・今後「禅」を学ぶための勉強会を増やす。
- ・4チームリーダー合同会議の開催を定期的に行うことで、検討事項の早期解決を図る。

## ◆点検シート

点検・評価 年度	2016年度	点検単位	事務部門(禅文化歴史博物館、教務部 研究推進課、総務部広報課)
目指す姿(2020年)			
禅ブランディング事業推進に伴う事務業務を的確に実施し、教員を中心とした4チームのサポートを行う。			
年次計画 目標(2016年)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・備品の購入、広報ホームページや禅(ZEN)に関するWebコンテンツの作成等を行うこと。</li> <li>・平成29年度以降の実施体制の基盤を作ること。</li> </ul>			

## 平成28年度の事業進捗状況について

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、現状説明を記入。

## 【学長のリーダーシップのもと、全学的な取組となっているか。】

本事業の実施にあたり、学長を委員長とした研究活動推進委員会では以下の内容を審議した。  
平成28年度第1回研究活動推進委員会(7月28日開催)において、文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」への申請について審議の上、承認がなされた。  
11月22日に事業選定の通知を受け、各種調整を加えた事業計画について、平成28年度第2回研究活動推進委員会(1月11日開催)において承認された。  
また、禅ブランディングプロジェクトチーム合同会議を2回開催し、事業計画や進捗状況の確認、各種審議等を行っている。

## 【禅ブランディング事業を周知するための広報が実施されているか。】

禅ブランディング事業の概要を掲載した専用Webページを作成し、平成29年1月より社会へ公表している。(総アクセス数:5082回)(トップページ:3429回、事業内容:887回、事業実施体制:766回)(調査期間:1月10日～3月8日)  
また「禅研究の世界発信に関する駒澤大学のトータルな禅(ZEN)ブランディング・プランの募集」について、大学トップページ「大学からのお知らせ」に掲載。(総アクセス数:1328回)(調査期間:1月23日～3月8日)

## 【禅研究センターの設置状況】

平成30年度より、禅研究センターの運営を開始する計画となっているが、現在設置にかかる手続き等は進んでいない。

## 【補助金予算管理の適切性】

平成28年度予算3000万円を、源流チーム300万円、人の心と体チーム200万円、社会制度チーム150万円、世界発信チームに2000万円、事務経費として350万円を振り分けた。

研究系3チームは、外部資金・特別研究助成用研究費申請の手引きに基づき、予算を執行した。世界発信チーム・事務経費においては、高額な調達案件(禅ブランディング・プラン、事業の効果測定と分析、応量器の購入)については、調達部会の承認を得た上で支出をおこなった。

## 【業務分担】

現在、禅文化歴史博物館、総務部広報課、教務部研究推進課の3部署を中心に事務を分担している。禅文化歴史博物館は研究系3チームのサポートを、総務部広報課は世界発信チームのサポートを、教務部研究推進課は予算管理や文科省対応等を担当している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【点検・評価(効果が上がっている事項)】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

- ・学長のリーダーシップのもと、取り組まれている委員会の実施。<研究活動推進委員会2回(7/28, 1/11)、禅ブランディングプロジェクトチーム合同会議2回(12/21, 3/3)>
- ・大学ホームページにおける禅ブランディング事業概要等の公表。
- ・予算執行における学内既存ルールとの共通化。

【点検・評価(改善すべき事項)】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

- ・禅研究センター設置にかかる手続きが未着手である。
- ・組織体制と業務量の調整や関連事務部署が複数にまたがる案件の対応について、改善が必要である。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

- ・関連委員会における、禅ブランディング事業の取り組み等の状況報告。学内構成員への恒常的な報告。
- ・ホームページにおいて、既に公開済みのコンテンツに加え、新たなコンテンツを追加する。(事業進捗や組織体制の掲載等)  
→禅ブランディングに関するニュースやイベント等を大学トップページおよび禅ブランディングホームページに追加する。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

- ・禅研究センター設置にかかる手続きに着手する。禅研究センター設置準備室(仮称)を設置し、検討を開始する。
- ・今後の禅ブランディング計画に基づき、事務業務分担の見直しや組織体制の改善を検討する。  
→事業を円滑に実施するため、可能であれば、事務担当者を増員することが望ましい。